

森の日記 2023年6月25日から9月10日まで

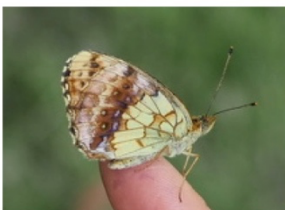
by 迷鳥キツキ

6月25日は快晴の夏日となりました。9時からエゾリスの会によるチョウの調査がありましたが、私は早朝に町内会活動があったので45分ほど遅れて他のメンバーの後を追いました。途中、クモキリソウ、キツリフネ、イケマなどの花などを見ました。チョウの種類も代わってきており、サトキマダラヒカゲや種類不明のヒョウモンチョウ、コキマダラセセリなどを新しく見ました。前回にもいたクロヒカゲ、スジグロシロチョウ、ヒメウラナミジャノメ、シロオビヒメヒカゲなども見ました。柏林台川を渡る地点ではエゾノシモツケソウが美しく咲いていました。ルートの途中のあちこちではヤマグワの実が熟しはじめ、いくつか食べてみましたが甘酸っぱくて美味しかったです。



左：カシワ林内を調査中、 右：サトキマダラヒカゲ

7月9日の9時からチョウの調査が行われました。ミドリシジミなどのシジミチョウ類、キマダラヒカゲやサカハチチョウなどのタテハチョウ類、ヒョウモンチョウ類がたくさん現れたので、調査は12時半頃までかかりました。ヤマグワの実が完熟状態になり、調査中に立ち止まって食べることができました。



左：フタスジチョウ、 右：ヤマグワの木の下で

植物調査は遅れて13時30分の開始となりました。咲き始めている草としてはオオウバユリ、クガイソ

ウ、ヤブハギ、ハエドクソウ、キツリフネ、オトギリソウ、ナミキソウなどがありました。



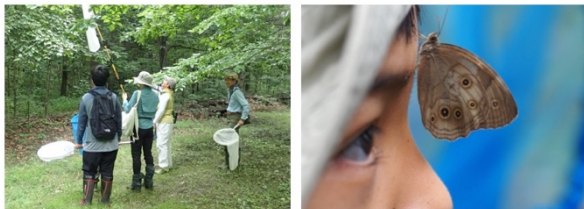
左：集合地点のホザキシモツケ、 右：クガイソウ

7月23日は朝9時から里山づくり活動がありました。10年ほど前から育成してきたオミナエシの周りにヤブマメが旺盛に生育し、オミナエシの生育を妨害するようになったので、オミナエシの周りのヤブマメを除去し、オミナエシが陽の光を受けて生育できるようにしました。自然植生を調整することは難しいなと思いました。午後にはチョウの調査がありましたが、私は所用のため欠席しました。天気も良かったのでいろいろなチョウが見られたと思います



左：作業前の説明、 右：オミナエシとヤブマメ（背景）

8月6日の午前中はチョウの調査が行われました。気温は18℃から20℃くらいの間で暑くありませんでした。往復は自転車でしたがあまり汗をかかずに済みました。今日はいつもチョウの同定を頼っている会員さんが体調不良で来られなかったので、調査にいつもより長い時間かかりました。チョウの種類は森林区域ではクロヒカゲが多く、後半の草原ではジャノメチョウがたくさんいました。他にはオナガシジミ、ゴマシジミ、ツバメシジミなどを見ました。午後には植物調査がありましたが、私は都合で参加できませんでした。



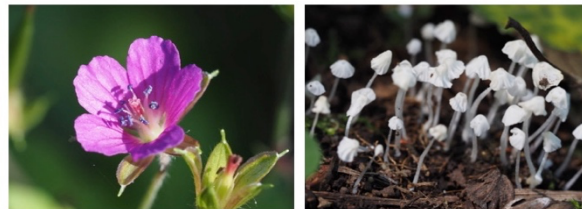
左：ヤマブドウを見上げる会員、 右：クロヒカゲ

9月3日は朝9時からチョウの調査、午後13時15分から植物の調査が行われました。前回雨によって中止だったので、ほぼ1ヶ月ぶりの活動でした。気温が低くなったためか、最初森のチョウがあまり現れませんでした。草原付近では多数のチョウを見ることができました。珍しいチョウとしてはヒメアカタテハ、オオウラギンスジヒョウモン、シートタテハなどがありました。秋のトンボもいろいろなものを見ることができました。



左：調査中のメンバー、 右：ヒメアカタテハ

9月3日午後の植物調査は2つのグループに分かれて、Aグループは森の中の指標種植物の個体数調査を、Bグループは草原から森林にかけてのルート上で蕾、花、実を結んでいる全ての植物を見つけ出して記録する調査をしました。私はBのグループでした。開花がピークを迎えていたのはオオイタドリ、ミズヒキ、ハナタデ、イヌタデ、ミゾソバなどのタデ科の植物でした。森の中ではエゾトリカブトやサラシナショウマが綺麗に咲いていました。草原ではイチゲフウロ、ゲンノショウコ、ミツバフウロなどが咲いていました。よく似たこれらの3種類の花を同じルート上で比較できました。花期が長いオオアワダチソウ、キンミズヒキなどの花も咲いていました。秋の到来を反映して、午前・午後ともに林内でさまざまなキノコも見ることができました。



左：ゲンノショウコ、 右：シロホウライタケ

帯広百年記念館では8月5日から9月10日まで特別企画展「十勝縦断生物誌」が開催されました。エゾリスの会メンバーの池田さん他が企画されたものなので、私は期間中3回見学しました。高い山と海に囲まれた十勝には貴重で特殊な生物相が分布していますが、地域内での分布には地形の違いと大きな川の影響が及ぼしています。この企画展はこのことをテーマにして、地形ごとの生物相の特徴（らしさ）を説明していました。例えばエゾエンゴサクの葉の形にいろいろな変異があった地域ごとに分布が違ふこと、イチゲの仲間にもいろいろなものがあり分布が違ふことなどが説明されていました。また、十勝川の右岸と左岸で植物の分布に違いがあり、例えばカタクリやオクエゾサイシンは右岸だけで見られるとのこと。また右岸にある豊頃丘陵の生物相は左岸にある白糠丘陵の生物相とは大きく異なり、日高山脈の生物相と似ているそうです。非常に示唆に富んだ企画でした。さらに、9月2日に行われた関連講座「みんなで作る自然マッパー北海道・札幌・十勝」では、さっぽろ自然調査館の渡辺さんを講師とし、2022年に行われたフラワーソンの調査結果の詳しく興味ある解説が行われました。



左：ヒグマ（浦幌 1991）、右：エゾエンゴサクの葉の変異。